

2025年度

世界史

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
記号で答えられるものは記号で記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の1～13ページに記載されています。
問題冊子の白紙部分は、メモとして使用して構いません。
5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I イスラームは現代では世界中に普及し、国際政治を動かす重要なアクターとなっている。イスラームがどのように世界に広まったのか、以下の年表を見て考えてみよう。表中の空欄 ～ にあてはまる事項を、下の選択肢(a)～(se)から一つ選び記号で解答欄に記入しなさい。また、下線部(1)～(6)に対応する問1～6に答えなさい。

622	預言者ムハンマド、 <u>メッカでの迫害から逃れてメディナへ亡命</u> (1)
630	イスラーム軍がメッカを征服
632	ムハンマド死去、アブー＝バクルがカリフとなる
634	ウマルがカリフとなる
636	ヤルムークの戦い、ビザンツ帝国軍を破る カーディスィーヤの戦い、ササン朝軍を破る
638	イスラーム軍、イェルサレムを攻略
639	イスラーム軍、エジプト、ジャジーラへ侵攻開始
642	<input type="text" value="A"/>
644	ウスマーンがカリフとなる
656	アリーがカリフとなる
661	<input type="text" value="B"/>
711	ヘレス＝デ＝ラ＝フロンテラの戦い、イスラーム軍が西ゴート軍を破る、 <u>西ゴート王国滅亡</u> (2)
732	<u>トゥール・ボワティエ間の戦い</u> 、フランク王国がイスラーム軍を破る (3)
750	<input type="text" value="C"/>
751	タラス河畔の戦い、イスラーム軍が唐軍を破る (4)
756	ウマイヤ家のアブド＝アッラフマーン、イベリア半島に後ウマイヤ朝を開く
762	<input type="text" value="D"/>
868	トルコ系軍人のイブン＝トゥールーン、エジプトにトゥールーン朝を開く

875	E
909	イスマール派がチュニジアにファーティマ朝を開く
946	F
969	ファーティマ朝がエジプトを征服, 新首都カイロの建設に着手
977	アフガニスタンのガズナに, ガズナ朝が成立
999	カラハン朝, ブハラを占領してサーマーン朝を滅ぼす
1055	G
1099	十字軍, イェルサレムを占領, イェルサレム王国を樹立
1169	サラフ=アッディーンがカイロを都にアイユーブ朝を開く
1206	H
1250	カイロを首都とするマムルーク朝が成立
1258	I
1295	⁽⁵⁾ イル=ハン国の君主, イスラームに改宗
1370	J
1414	このころ, マラッカ王国の国王がイスラームに改宗 ⁽⁶⁾
1453	K
1492	スペイン軍がグラナダを攻略, ナスル朝滅亡
1501	イスマール派がイラン高原を拠点にサファヴィー朝をひらく
1526	L
1529	オスマン帝国軍がウィーンを包囲
1557	スレイマン=モスクが完成
1571	M
1683	オスマン帝国軍が再びウィーンを包囲
1699	N
1805	ムハンマド=アリーがエジプトに王朝を開く

選択肢

- (あ) アブー＝アルアッバースを初代カリフとするアッバース朝が成立
- (い) イラン系サーマーン家のナスル1世，サーマーン朝を開く
- (う) オスマン帝国軍，コンスタンティノーブル入城，ビザンツ帝国滅亡
- (え) カリフが暗殺され，シリア総督であったムアーウィヤが新たなカリフとなり，ウマイヤ朝を開く
- (お) カリフのマンスール，バグダードの首都としての造営に着手
- (か) カルロヴィッツ条約，オスマン帝国がオーストリア・ポーランド・ヴェネツィアに領土を割譲
- (き) 北インドのデリーに奴隷王朝が成立
- (く) セルジューク朝軍，バグダード入城，君主がスルタンの称号を得る
- (け) ティムールがサマルカンドを拠点にティムール朝を開く
- (こ) ニハーヴァンドの戦い，ササン朝軍を破る
- (さ) バーブルがインドのデリーを占領，皇帝を宣言してムガル帝国をおこす
- (し) フレグの率いるモンゴル軍がバグダードに入城，アッバース朝を滅ぼす
- (す) ブワイフ朝軍，バグダード入城，君主が大アミールの称号を得る
- (せ) レパントの海戦，オスマン帝国艦隊がヨーロッパ側連合軍に敗れる

問1 この二つの都市は、現在どこの国に属しているか、現在の国名で答えなさい。

問2 この国の説明として、もっとも適切な文を下の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (あ) アッティラ王の下で、現在のハンガリーにあたる地域を支配したフン人の国。カタラウヌムの戦いで西ローマ帝国に敗れた。
- (い) ガリア西南部とイベリア半島の大半を支配したゲルマン人国家、6世紀にフランク軍に敗れ、都をトレドに移した。
- (う) テオドリック大王の下でイタリアを支配したゲルマン人国家、ラヴェンナを首都とした。
- (え) メロヴィング家のクローヴィスが建てた国家、全フランク人を統一してガリアー帯を支配した。
- (お) ランゴバルド人が北イタリアに建てた国家、フランク王国の侵攻を受けてからはカール大帝の西ローマ帝国に服属していた。

問3 この戦いが行われた場所は、現在どこの国に属しているか、現在の国名で答えなさい。

問4 この頃の唐の情勢を説明した文として、もっとも適切な文を下の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (あ) 黄巢の乱によって国内が乱れ、朱全忠の力によってなんとか平定したものの、国力は衰退しつつあった。
- (い) 則天武后が初めての女性皇帝となり、門閥貴族を排して有能な科挙官僚を登用した政治を行っていた。
- (う) 第2代皇帝太宗が、律令体制による整然とした統治制度をうちたて、「貞観の治」と呼ばれる安定した治世を築いていた。
- (え) 第3代皇帝高宗の下で百済・高句麗を滅ぼし、中央アジアに進出するなど、最大の版図を誇っていた。
- (お) 第6代皇帝玄宗が、楊貴妃を寵愛し、楊氏一族の専横を招いて国内が混乱しつつあった。

問5 この国の説明として、もっとも適切な文を下の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (あ) 東西トルキスタンを中心に、チンギス＝カンの子孫が建てた政権、この国から後にティムールが台頭した。
- (い) バトゥが南ロシアに建てたモンゴル人国家、ロシア諸侯を支配し、「タタールのくびき」と呼ばれた。
- (う) フェルガナ地方を中心にウズベク人が建てた国、中国とロシアを結ぶ交易都市を支配して発展した。
- (え) ブハラに都を置いたウズベク人の王朝、後にロシアの支配下に入り、ロシア革命後に併合された。
- (お) フレグが元朝を宗主としてイラン高原に建てたモンゴル人の政権、首都はタブリーズ。

問6 この国の都であった港市は、現在どこの国に属しているか、現在の国名で答えなさい。

II ラテンアメリカ諸国の「独立記念日」について述べた次の文章を読んで、文中の空欄 ～ にあてはまる最も適切な語句または数字を記入しなさい。また、下線部(1)～(5)に対応する問1～5に答えなさい。なお、同名の君主がいる場合は区別をつくり形で答え、人名で「何世」とつく場合はかならずつけること。(例「ジョージ7世」)

世界各国の記念日には、その国の歴史や文化、政治体制や宗教行事との関わりが映し出される。多くの国は、国の成り立ちを記念する日として「建国記念日」や「独立記念日」を定めているが、その由来は一国の歩みには収まらない、時間的にも空間的にも広範に影響し合う歴史事象のあらわれを想起させる。

ラテンアメリカ諸国の中でも、同じ年の同じ日付である「1821年9月15日」を「独立記念日」としているのは、中央アメリカに位置するエルサルバドル・グアテマラ・コスタリカ・ニカラグア・ホンジュラスの5カ国である。これらの国々を含む地域は、 と呼ばれた白人入植者の子孫が主に地主として先住民や黒人奴隷を支配する、宗主国スペインの一行政区であった。これらの国々は、同じく1821年⁽¹⁾に独立を宣言したメキシコの一部になった後、地域主義の強まりとともにそれぞれ分離、独立することになった。

スペイン植民地による独立運動は、19世紀前半の中南米に広くみられた動きである。本国スペインでフランスの支配に抵抗する勢力により立憲君主制を宣言する憲法⁽²⁾が1812年に公布されると、これに刺激を受けた植民地各地の は、本国生まれの白人優遇策への不満もあって、独立に向けた動きを強めた。地理的に離れた本国側に対し、植民地側は兵力に勝ることから戦いを優位に進め、1810年代から20年前後の時期にかけて複数のスペイン植民地が独立した。⁽³⁾たとえば、アルゼンチンの「独立記念日」は、スペインからの独立を宣言した「1816年7月9日」である。また、アルゼンチン出身のスペイン軍人である を指導者として独立運動を展開したチリは、独立を宣言した1818年2月12日ではなく、独立運動のきっかけとなった会議が初めて開催された「1810年9月18日」を「独立記念日」としている。

こうした中南米諸国の独立を支持する動きは、アメリカ側とヨーロッパ側、双方の大陸からもたらされていた。独立後の国々との自由貿易の発展を期待していたイ⁽⁴⁾

ギリスは、独立運動を支持する立場を取った。一方、イギリスからの独立を一足先⁽⁵⁾に果たしていたアメリカ合衆国は、1823年に 宣言を発して、アメリカ大陸とヨーロッパとの相互不干渉主義をとることを宣言し、間接的ながらも独立運動を支持した。

19世紀初頭の「独立記念日」より見出される中南米諸国の独立運動は、人間の自由と平等をめぐる思想の交流とその担い手により支えられ、ナショナリズムの高揚を伴いつつ展開した。これは、「」と称される、広大な海域を挟んでアメリカ・ヨーロッパ両大陸で展開した一連の政治的、経済的な変革運動に位置づけ捉えることが可能な社会的事象である。

- 問1 (a) メキシコの「独立記念日」は「1810年9月16日」とされている。この日付の由来となった、被支配層に対する抑圧からの解放を求める民衆の蜂起を指導し、メキシコ独立の先駆者とされた神父の名前を答えなさい。
- (b) (a)の蜂起にも加わった、先住民であるインディオと白人の混血を指す被支配層の呼称を答えなさい。

問2 (a) スペインに見られたフランスへの反乱は、イギリス経済へ打撃を与えることを目的として1806年にフランスが発した、通商や産業の規制に関する勅令への抵抗という側面を持つ。この勅令の名称を答えなさい。

(b) (a)の勅令に対するロシアの対応と抵抗について述べた次の文 y と z の正誤の組み合わせとして正しいものを、下の(あ)～(え)から一つ選び、記号で答えなさい。

y 勅令以降、ロシアは対英貿易を自粛していたが、主な輸出品である穀物の輸出先を失ったことによる経済的苦境に耐えきれず、勅令を無視して対英貿易を再開した。

z ロシアの対英貿易を封じ込めるため、フランスは1812年に大軍を送り込みロシア遠征を執行したが、ロシア側の焦土戦術やゲリラ(小規模部隊による攪乱攻撃)戦術により、モスクワへたどり着くことなく撤退を余儀なくされた。

- (あ) y — 正 z — 正 (い) y — 正 z — 誤
(う) y — 誤 z — 正 (え) y — 誤 z — 誤

(c) スペインによる一連のゲリラは、次第にフランス軍による侵略の勢いを弱め、ナポレオンによる支配体制に動揺を与える結果となった。解放戦争を経てナポレオンが退位した後に即位し、王政復古を果たしたフランス国王の名前を答えなさい。

問3 (a) コロンビアは、スペインからの独立を宣言した「1810年7月20日」を「独立記念日」としているが、実際に「大コロンビア」として独立を果たすのは1819年のことである。この「大コロンビア」を構成し、後の1830年に分離独立した、スペイン語で「赤道」を意味する国の名前を答えなさい。

(b) (a)や自身の出身国の独立運動に関わったほか、「1825年8月6日」にスペインから独立した共和国の名称の由来にもなった、中南米独立運動の指導者の名前を答えなさい。

- 問4 (a) 北アメリカの植民地をめぐるイギリスの権益は、18世紀半ばに北アメリカ・ヨーロッパ両大陸で並行して戦われた、対フランスの2つの戦争での勝利により確立された。これらの戦争を終結させた、1763年の条約の名称を答えなさい。
- (b) イギリスに繁栄をもたらした産業革命を支えた数々の技術革新のうち、18世紀初め、蒸気機関を動力装置として、石炭採掘時に発生する排水を汲み出す仕組みを考案した人物の名前を答えなさい。
- 問5 (a) アメリカ合衆国の「独立記念日」は、「第2回大陸会議」にて独立宣言を採択した「1776年7月4日」である。この日付の由来となった会議で、対イギリス独立戦争を指揮する植民地軍総司令官に任命された人物の名前を答えなさい。
- (b) 植民地側の世論を独立に導いたとされる、1776年に出版されたトマス＝ペインの小冊子の名前を答えなさい。

Ⅲ 次の文章を読んで、文中の空欄 ～ にあてはまる最も適切な語句または数字を記入しなさい。なお、同名の君主がいる場合は区別をつくり形で答え、人名で「何世」とつく場合はかならずつけること。(例「ジョージ7世」)

今日多くの芸術愛好家が訪れるパリのルーヴル美術館は、1190年、フランスの 朝7代目である国王フィリップ2世の命により、パリの防衛の要として建設された城であり、その堅固な要塞の遺跡は現在もルーヴル美術館の地下で公開されている。 朝にかわってフランスを統治した 朝のシャルル5世の治世において、ルーヴル城は、その要塞としての役割は減じられ、増築・造園・内部の華やかな装飾芸術により、国王の居城に相応しい豪華な城館へと変身を遂げる。ただし、シャルル5世の死後、フランスは長い苦難の時代を迎え、とりわけ、イギリス国王 による王位継承権の主張を契機に1339年に始まった 戦争の間は、フランス王の城館としての役割を果たさなかった。しかし、1515年に即位した は、イタリア戦争で神聖ローマ皇帝 と激しく対立したフランス国王であるが、ルーヴル城を居城として選び、1528年には主塔を取り壊して宮廷としての改築を進める。さらに は建築家ピエール＝レスコに壮麗な宮殿へと改修することを命じたが、これは長い年月を要し、次世代へと引き継がれていく。

その後一時中断ののち、1589年にブルボン朝の初代国王となった は、荒れ果てたルーヴル宮殿と隣接するテュイルリー宮殿の壮大な工事計画に着手し、そこに古代ギリシア・ローマの収集品を展示する間も設けた。美しく装飾されたこの部屋は後のルーヴル美術館の原型とも言える。その後、 を宰相として採用し王権を強化したルイ13世、そして絶対王政君主ルイ14世の治世では、王権を誇示するための壮麗な宮廷が目指され、1657年から建築家ルイ＝ル＝ヴォーがその設計に関わる。しかし、1682年、ルイ14世は歴代のフランス王がルーヴル宮殿に置いてきた宮廷を、パリ南西約20kmに位置する 宮殿へと移す。その後、ルーヴル宮殿を美術館にする構想が進んだのはルイ16世の治世においてであり、最終的にはフランス革命下の1793年に、ルーヴル宮殿の中に「民衆のための美術館」が誕生した。ただし、美術館はナポレオン1世の皇帝即位の前年にあたる

年からは「ナポレオン美術館」と呼ばれ、ヨーロッパ各地に進軍した皇帝軍が持ち帰った戦利品で溢れたと言われる。

Ⅳ 戦争や平和を論じた歴史上の人物に関する次の文章A～Eを読んで、それぞれの文章にあてはまる最も適切な人物の名前を答えなさい。

A 春秋時代末期から戦国時代初めの思想家で、孔子の仁を差別的な愛だとして批判し、血縁によらない普遍的・無差別的な愛である「兼愛」となえ、侵略の手段としての戦争を否定し、「非攻」を唱えた。彼の説を奉じる学派は、守城戦の専門集団として各国で歓迎されたが、秦による統一以降は衰えた。

B 春秋時代の呉の武将・兵法家。「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」や「百戦百勝は善の善なる者に非ざるなり。戦わずして人の兵を屈するは善の善なる者なり」などをはじめ、戦略・戦術について総合的に論じた。彼の兵法書は、現在も国内外の国防関係の教育機関において教材として採用され、研究されるなど広範な影響力を及ぼしている。

C オランダの法学者・政治家。近代自然法を発展させて国際関係に応用、国際法の発展に寄与したことから、「国際法の祖」「近代自然法の父」と呼ばれる。彼の代表作である『戦争と平和の法』は、三十年戦争の悲惨さから衝撃を受けたことをきっかけに、国が有する自然権や、戦時における各国の守るべき義務・権利などを述べ、国際法を体系化したものである。

D ドイツの哲学者。合理論と経験論を批判的に総合してドイツ観念論哲学を創始した。代表的著作は『純粹理性批判』であるが、晩年に著した『永遠平和のために』では、戦争について現実的に分析しつつも、人間の理性に基づく各国の自由な連合が永遠平和の条件であると主張し、現代の国際連合やEUにつながる国際秩序観として現在もおお甚大な影響を及ぼしている。

E 19世紀のロシアを代表する作家・思想家。クリミア戦争に従軍後、郷里で農民子弟の教育にあたる一方、文学においてリアリズムと人道主義の結合をめざした。晩年、すべての戦争への反対と無抵抗主義を含む独自の宗教観をとなえ、ガンディーの非暴力・不服従思想などに大きな影響を与えた。彼の代表作の一つ『戦争と平和』は、ナポレオン1世のロシア遠征時におけるロシア国民の抵抗を描いた歴史小説である。